
平成 21 年度書籍並びに雑誌専門委員会

平成 21 年 8 月 1 日(土) 於 如水会館

全製工連書籍専門委員会（林庸光委員長）と雑誌専門委員会（丸山政利委員長）は、8 月 1 日(土)午後 3 時より、一ツ橋の如水会館『オリオンの間』で開催された。

東京、神奈川、長野、愛知、京都、大阪、岡山、広島各工組から 24 名が出席、中島誠一委員（東京工組）の司会でスタートし、丸山委員長の挨拶の後、林委員長が議長に就任し議事に入った。

最初に各工組が近況報告を行い、東京工組から順に状況が報告された。

東京工組「上製本関係は出版数が少なくなっており、どの企業でも苦戦している。その中でも、ブックフェア等で P U R を使った上製本等を提案した企業もあり、その後で、いろいろな出版社が興味を持ち、質問も受けていたようだ。しかし、興味はあるが、仕事としてはなかなか市場に出てこないのが現状であろう。」

東京工組「東京は出版社が多いので、出版系の雑誌の事を話させて頂く。

現在、広告が激減し、これに伴いページ数も減少し、本の厚さが 3 分の 2 位になってしまった。それに加えて部数も減っているため、1 誌あたりの売上がかなり減っている。ファッション雑誌を中心に広告減少の影響が出ている。

大手出版社と付き合いのある製本会社ほど売上の落ち込みが激しい。中堅出版社と太いパイプを持っている所は、そのあたりが緩やかであるようだ。

出版社の方に話を聞くと、自社でもネット配信に力を入れている。それ故、紙で何が出来るのかを出版社が真剣に考え始めた。紙のメディアから出版社が完全に撤退する事は考えられないが、残った紙の部分で、新しいことをやるという所にいかに絡んでいくか、我々が紙の組み立て工場として何ができるのか企画から積極的に携わっていくことが非常に大切だ。そういった

危機感の中で、既存のレールを延ばすのではなく、新しいレールを敷いていく所に、製本業がどうやって携わっていけるのか、日々出版社の方と模索している状況である。」

神奈川工組「書籍、雑誌を専門で行なっている業者はほとんどなく、商印が中心である。ほとんどの仕事がパソコンに取られて、紙の媒体は減っている。仕事量が下がっている状態で、これから増加傾向になるとは思えない。これからも減少するだろうし、役所や企業でも紙を使うよりパソコンで処理するような状況なので、今後、神奈川のような小さな製本屋が生き残るためにはどうしたらよいかを模索中である。

逆にパソコンを使って力を発揮できるような方向を考えないと、今後生き残れないような感じがする。今回、ここで皆さんの意見を聞いて、神奈川の仲間に伝えなければならないので、できるだけ良いお話を聞かせていただければ幸いである。」

長野工組「長野工組は現在 33 社で、15 社が長野市内に集まっている。この 15 社のデータを見ると、組合員企業で上製を行なっているのは私の会社のみになった。手帳ラインと上製ラインを持っているが、いずれも半減に近い状態である。

並製ライン、中綴ラインについては、かつて長野県は活版王国と呼ばれ、ページ物を扱う印刷会社が多く、それに関連してそれらの設備を持っている製本企業も多かったが、非常に厳しい状態である。

そのような中で、私共は「製本業もやる会社」であるという表現に変え、丸 3 年になる。儲かる儲からないは二の次で、「紙でない本」、Web 中の電子本、電子カタログに関して、仕事量は信じられないくらい多い。正直なところ、想像もつかない位、今も仕事が入っている。ただしそれに対応する職人がいないのが現状。Web の意味での職人がいないので目茶苦茶忙しい。Web 関係技術者の労働賃金は紙の職人とまるで違う。金さえ出せば Web 職人はいるが、採算が取れるようにするのが難しい状況。

オンデマンド関係も Web の中でやっているが、その中の受発注の 8 割以上がハードカバーである。一般消費者にとって書籍はハードカバーを求めている

るようである。

現在、展示会での営業に力を入れ始めているが、お客はほとんどが製本印刷企業ではない。Web の中で注文するのは、町のコピー屋やカメラ屋、結婚式場などである。HP 作成の後に、オリジナルアルバムを作ったり、記念誌を作ったり、ブログを本にしたり、私としては間違いなく手ごたえを感じている。

そういった方向を同業の方に勧めている。Web の中での本作りにも、紙の製本と同じように丁合や折といった部品作りがあり、それを組合の仲間に手伝ってもらいたい。北海道の同業者は見学に来てから設備を始めているし、石川の同業者もやり始めたという事である。儲かるか儲からないかはわからないが、仕事の量は膨大にある。正直、私の考えに反撥を感じられる方もいると思うが、電子媒体の電子本についても、製本業が手掛けて良いのではないかと思う。」

愛知工組「仕事の量が減っている。5～6月位までは忙しかったが、それ以降減ってきた。仕事の絶対数が減っている。教科書を例にとると1000冊製本するとして、300冊は上製にしてくれといわれるが、上製も並製も同じような納期で作ってくれという事で、時間的に非常に厳しく対応できない。数が減ってこれからどうやって生きていったらよいのか。

TVを見ていたら、読み書きのクイズが随分と多い。それらが本になってくれるとありがたいのだが。」

愛知工組「愛知の場合は、書籍も雑誌も商印も全部同じ事をやっている。アンケートをまとめると、愛知だけでなく全国的に同じ、わかりきった事ばかりなので、その報告を聞くのではなく、だったらどうするんだという事を、この場で検討して欲しい。現状報告のみだと退屈である。」

京都工組「毎年独自にアンケートを行なっている。集計した結果、京都は書籍が9社、雑誌は20数社あり、書籍でいうと、売上高、受注高については、20%が変わらない、80%が減少しているという結果で、大変厳しい状況である。昨年は増加が1社あったが、今年は0であった。

雑誌の方も不変が28%、減少が72%と厳しくなっている。受注単価に関し

ては、昨年と同じが 30%、今年になって 70%の所が指値や値引きなどの形で単価を下げられている。」

大阪工組「大阪は景気の悪化により仕事量が激減している。8割方の企業が売上高、受注量、単価に関して減少という回答を出している。

特に過当競争が問題だ。仕事を何とか取ろうというあまりに値段を下げ合い、「こんな値段でできるのか」というような製本単価が出てくる。折りをしても折代がなく、ただ仕事が動いているだけというような値段でやっている。

旅行のパンフレットは、豚インフルエンザの影響で全くだめで、輸出関連も不調で取説関係の仕事が出ず、社内報は取り止めになり、フリーペーパーは広告が取れないのでしばらくは休刊との事。大手の印刷会社に仕事が入らないので、下請けに仕事を出さず、しばらくは内製化で対応するという、非常に大変な事態に陥っている。いつまで耐えられるかという状態。

通販に関しても、紙媒体から電子媒体に移行し、通販自体は好調だが、紙にたよる部分が非常に減少している。

この景気悪化により、機械、資材関係の賛助会員の組合脱退が出てきて、組合財政が非常に悪化している。それに伴い、組合員の倒産、廃業が前年に比べ増加している。組合としては歯止めをかけるべく、組合員以外の製本会社をタウンページなどで調べ、組合加入のパンフレットを作って配布するなど努力をしている。多少なりの成果はあったが、組合脱退の流れは止まらず、組合の存続も危ぶまれる状態である。」

大阪工組「大阪では書籍製本を扱う会社が大分減った。京都ではかがりをする会社がないという事で、大阪に上製の仕事が流れてきているが、非常に細かい数字のものが動いているに過ぎない。大阪で上製を行なっている会社は3~4社に限られてきた。そこもほとんどの仕事が小さなロットで、上製はどんどん仕事が減っている。

私の会社でも一部、上製本を扱っているが、全くなくなるわけではないが、細々と受注が入っている。

ある大手印刷会社の役員と話しをしたところ、全国で印刷輪転機が3000台あるが、その内の2割は設備過剰で止まっている。印刷にしても製本に

しても設備過剰ではないか。もう少し調和がとれるまで、待たないといけないのではないかという意見であった。

去年の6月頃、大阪ではお得意先に製本代の値上げを訴えようではないかという声が上がったが、それも立ち消えになり、今ではどんな値段でもやるわけではないという風潮になった。そこへきて仕事量が少ないという最悪の状態になってしまった。」

広島工組「前年比減少傾向は変わっていない。組合員の8割強が減少との回答があった。それに伴って、製本単価が下降し続けており、市場規模の縮小に歯止めがかからない。今年に入って5～7月の月初めの閑散期はほとんど機械が動いていない状況も見受けられる。

大きな要因の一つとして、4月にNTTの工場が閉鎖して、そこからの製本受注がなくなり、更に今年頭、同時不況の影響で、自動車、不動産等の宣伝自粛によって印刷物が激減し、製本市場も大きく影響を受けた。

6月に入って、マツダがエコ減税のPRをしているが、昨年同期と比べると半分以上のような気がする。又、同人誌の方は繁忙期を迎えているが、昨年より2割ほど落ち込むだろうと予測している。」

岡山工組「大阪以西でラインを持って上製本を行なっているのは自社だけだと思うが、非常に状況は悪い。この1年、前年と比べると15%位落ち込んでいる。特にこの春、4月以降からの落ち込みが激しい。西日本で上製本をやる所が少なくなっている中で、自社としても仕事が減っているのは、どう考えればよいのか。

どうしたら上製の仕事が増えるのか。営業のあり方を、印刷会社主体の営業をこれからも続けていくのか、それとも別の切り口にするのか、そして自社の生産体制について、まだ取り組むべき事があると思っているので、内と外同時に、上製本の仕事についての立て直しに取り組みたいと思っている。」

岡山工組「岡山は小さな町にしては、比較的仕事がある方だったが、今年は非常に仕事が減り、それにより競争が激化し、単価が下がっている。岡山工組は全国大会の準備でバタバタしていて、悪い状況ではあるが、あまり気付いていない。

自社について報告すると、非常に品質要求が厳しくなっている。検査のポイントを増やす等、要求が増え、単価が下がっているにもかかわらず、管理費が上がってきている。何らかの方法でお客様にアピールしていかないと成り立たない。

現在では、ISOは役に立たず、商品ごと顧客ごとで必要以上の要求を求められたおり、これを単価に反映させていかないと厳しいと思う。

この間、あるお客様から依頼があった。そのこの工場でヤレ本が流出し、それがネット上で売りに出され大問題になり、ヤレ本の管理について自社でも調査をしると言われた。Pマークを取得し、それに則り個人情報保護体制について対応しているが、この件についても、対応が取れている回収業者と取引しており、その業者から聞き取りを行なったところ、業者では個人情報に係わるものと、そうでない一般のものを、きっちりと分別し、個人情報のものはきちんと管理した上で廃棄処分を行っている。ただし、そうでないものについては、そこまで細かく管理できない。それを管理するにはコストが発生するとの事であった。我々もお客様に対し、より高度な品質管理を要求されたら、それに関わるコストを主張していかなければならない。」

各県の状況を聞いた後、専門委員会開催に先立ち行ったアンケートの結果を、議長が説明、その内容を含めて、意見を求めた。

愛知工組「健全な経営のために、価格破壊はもってのほかである。ライバルの提示した額のマイナス数%を提示し、とにかく受注するという話しをよく聞く。原価計算をして、利益に着眼し、自滅するような仕事の取り合いを辞める事が必要。組合が利益計算できるような仕組みを作成したり、それについてのフォローアップをして欲しい。

愛知では包装の問題が持ち上がっている。顧客から包装形態について細かく要求されるが、それに対する料金が全く発生しない事が多い。客の要求に対応する事で、エンドユーザーに満足してもらおう価値に対して、料金をいただくという事を、団体として訴えていかなければならない。」

議長「簡易包装について、東京工組の書籍、雑誌部会で話し合い、印刷会社や出版会社にアピールするという事で、取材を受け、印刷タイムズ、印刷

新報の2紙に後日掲載される予定である。」

神奈川工組「仕事が減り、製本業者も減っている。組合として、辞める人間に対して、辞めやすい仕組みや手助けなども真剣に考える時ではないか。」

長野工組「従来の製本の仕事がなくなってきているのなら、違うものを考えればいい。私は電子媒体を考えている。現在、ITがなければ、医療も建築も食品も業が成り立たない。」

京都工組「去年のこの会で、卒業アルバムに代わり、フレッシュマンアルバムが登場し、売り上げが伸びたと話をさせてもらった。去年は一流大学のみだったが、今年は地方の国立大学を中心に仕事が広がった。しかしそのアップ以上に、上製の落ち込みが激しく、大変苦しんでいる。」

大阪工組「大阪では、以前、価格の勉強会を行なった。組合員以外の人間が多いのに、組合で価格を決めても、逸脱する人間が出てくる。価格はその会社の企業努力であり、単価表を作っても仕方がないという意見が出て、話は止まってしまった経緯がある。

組合脱退の流れが止まらない。組合加入のメリットを作り、組合員の減少を止める、又は加入に持っていく。大阪で機械の修理代についてのアンケートを行なったが、現在、機械メーカーは修理で儲けようという傾向がある。例えば10~20台折機を導入している会社と、1~2台の会社では、アフターサービスの料金が非常に違う。組合として調査して、機械メーカーとコンタクトを取り、『組合員価格』を設定してもらおう等、組合のメリットを打ち出してもらいたい。」

広島工組「先日、大手取引先から、『お宅の消費電力を調べて欲しい』と言われた。電力の消費で二酸化炭素の排出量を割り出すためだが、そこまで気を使って仕事をしなければならないのかと、少々ショックを受けた。管理コストがかかる分、他の所でコストを削減しないと利益が得られない。ある程度きちんとした理屈において算出される値段がないといけない。是非組合でおおまかな形を示し、皆でそれを共有できればと思う。

広島ではWeb中心の会社が印刷製本を扱い伸びている。製本といっても両面テープで貼り付けて本にしてある程度のものであるが、消費者はそれでも

納得している。」

岡山工組「紙製品の良さをPRするとか、どこかとタイアップして全く新しい本のあり方を研究していくのが、組合として出来る活動ではないか。

又、いろいろなケーススタディを全製工連から発信し、情報の共有を図ってもらいたい。」

東京工組「専門委員会を単なるガス抜き場としてではなく、出た意見に対して、執行部がどのようにしたらよいのか検討し、決定してもらいたい。

年に何回かテーマを決めて勉強会を行なうとか、組合として一つの活動をやっていく意思表示を求めたい。」

岡山工組「全製工連として、『製本の未来を考える会』というような、今後の製本とIT化等を研究して、全国に発信するような委員会を発足して欲しい。」等のさまざまな意見が出た。

最後に飯島昇雑誌担当副会長の挨拶、常川書籍担当副会長の閉会で終了した。

商業印刷製本専門委員会

平成 21 年度商業印刷製本専門委員会

平成 21 年 7 月 25 日(土) 於 ホテルアソシア静岡

全製工連商業印刷製本専門委員会(大熊茂樹委員長)は、7月25日(土)午後1時より、静岡市の「ホテルアソシア静岡」4階『カトレア』で開催された。

東京工組・佐藤稔幸氏の司会で進められ、最初に小島勲全製工連担当副会長の挨拶、開催地を代表して森 雅弘静岡協組理事長の挨拶、そして大熊委員長の挨拶に引き続き、司会が議長に大熊委員長を指名し議事に移った。

地区現況報告

地区現況報告は、事前にアンケートを行い、集計したものを配布し重要項目について質疑応答を行った。

製本希望単価の研究について

次の基本条件により、「中綴」「無線綴」「折」「伝票」「軽オフ製本」の希望単価の研究発表を行った。

- ・ 会社運営の必要経費を考慮すると
- ・ 従業員一人当りの稼ぎ高を5000円に設定する
- ・ 製品の受け渡しはお得意様の手配とする
- ・ 包装は完全梱包とする
- ・ 利益率は20%とする

(別紙集計表参照)

最後に岡山工組大谷理事長より全国大会開催地挨拶の後、大阪工組富塚委員が閉会の辞を述べ、午後4時、専門委員会は終了した。

紙製品製本専門委員会

平成21年度紙製品製本専門委員会

平成21年7月11日(土) 於 大阪「四季の宴 つぼみ」

平成21年7月11日(土)午後3時30分より、大阪「四季の宴 つぼみ」にて開催された。出席者は東京工組4名、愛知工組6名、岡山工組1名、大阪工組7名の計18名。

大阪工組・坂東氏の司会で進行し、最初に鈴木博委員長より「本日はお集り頂き有難うございます。活発なご意見をお願い致します。」と挨拶があった。

続いて大阪工組・澤田政紀常務理事が挨拶「大手の自動車メーカーも輸出を控えるという事で、どの業界も大変な状況なのだと思う。今日は、率直なご意見をお願いしたい。」

更に愛知工組・飯島昇会長理事が挨拶「製本業界だけが悪いわけではない。」

仕事が減らないようにするには、どうしたらいいのか？今までの規模を維持するにはどうしたらいいのか？縮小出来るところは縮小し頑張りたい。専門委員会も、一年に必ず一回は開催して、気持ちの入った会を行ってほしい。」

最後に大阪工組・田中成和理事長が「業界全体が大変な状況だが、みなさん頑張っていきましょう。」と挨拶を述べた。

続いて近況報告に移り、各工組より発表があった。

東京工組「隅田川の花火大会の時に皆さんと会ったが、一週間仕事がないという人もいた。お客様の問い合わせとして、個人情報保護制度を最低条件として、『Pマーク取っていますか？』と聞かれた。『取っていません』と答えると、他に何か取っておられますか？と聞かれたので『SAPPSです』と答えると『わかりました』と納得してもらえた。

組合員脱会は、商業印刷部会が多いように思われる。紙製品はあまり脱会がないようだ。商業印刷部会に比べると紙製品はまだましではないだろうか？

7月8日から10日に行われた国際文具・紙製品フェアで、紙リングをカレンダー以外に活用できないか？と提案した。」

愛知工組「1月・2月が悪かった。3月・4月は例年通り。5月・6月はパートタイマーが半月以上も休んでいる状態。愛知は産業事態、仕事事態が減っている。」

岡山工組「10月の全国大会の準備で忙しくしている。

岡山は、製本の日というのを設けて、一般の人に手作りのノートを作ってもらったり、ノートを配布したりしている。岡山は大手出版社の業績が良く、以前よりは落ち込んではいるが、まだ恵まれている。」

大阪工組「大変な状態。しかし、そんな中でも、なるべくはっきりとした意見を言えるようにし、本腰を入れ、自己責任をもって頑張っていきたいと思っている。新型インフルエンザについても職場及び従業員の健康管理に注意をはらっていかなければならないと思っている。」

その他の意見

* 単価が下がっているなので、低単価に巻き込まれないで、自社の単価を持たないといけないように思う。東京で断った大きな仕事が四国にいつってしまった。仕事が、東京から地方に流れている。

* 自社のロゴマークを作って商品につけようと頑張っている。ホームページも立ち上げた。

* 暇な時間を利用して、見本を作って印刷会社に営業に行っている。手の込んだ物を作ったりしている。いつ目が出るかはわからないが...

* ファイル・バインダーは半減。内職仕事みたいな手作業の仕事はあるが、この状況をどうにかしたい。

* 箔押しは大変な状況。

ダブルリングは、すごく仕事が減っている。朝鮮から仕入れて製品化したりしているのかどうか、とにかくダメージが大きい。

手帳専門委員会

平成 21 年度手帳専門委員会

平成 21 年 4 月 19 日(日) 於 愛知県犬山市「名鉄犬山ホテル」

さる 4 月 19 日(日) 14 時より、愛知県犬山市「名鉄犬山ホテル」にて 15 社 18 名の参加にて平成 21 年度手帳専門委員会が開催された。

伊藤愛知手帳部会長の主催者挨拶に続き、田中全製工連副理事長の御挨拶、吉澤東京手帳部会長、小野木大阪手帳部会長の各工組代表挨拶の後に参加各社の自己紹介・業況・保有課題が順次発表され意見・情報の交換が行われた。

(業況・保有課題)

- ・ 各社バラツキは有るが全体的には売上減または横這いの会社が大半で、大阪工組組合員アンケートにおいても他の品種に比べ若干恵まれた状況では

あるが、昨年の秋以降の不況の影響もあり、今年に向けて不安をかなり感じている。特に愛知県では自動車不況の影響が、顕著に出ている。

- ・カーボンフットプリント、グリーン購入法等、環境に配慮しつつ、品質要求の厳格化に対応するコストの増大、原材料の高騰等により、利益を圧迫する状況が続いており、概ね減益となっている。
- ・ベテランが定年を迎え、若い方への技術の伝承もあり、印刷のデジタル化も進み、製本段階だけでなく、逆に印刷段階まででのミスの撲滅に各社苦慮している。
- ・塩ビは復権基調に有り、今年は若干、価格が下がる見込みである。
- ・中国製品も、脅威となっているが、逆に中国に対して世界不況脱出の起爆剤となるよう、期待も大きい。

以上で3時間に及び熱心な情報交換を終了した。